

設立趣意書

近年の日本経済の発展を牽引している自動車、情報家電、携帯電話等の機能や性能は、搭載されるソフトウェア(組込みソフトウェア)の品質・性能に大きく依存し始めており、その開発需要と重要性はますます拡大すると予測される。今後、組込みソフトウェアは様々な分野で利用され、製造業における金型と同様に日本の産業を支える重要な基本技術となっていくのは確実である。

しかしながら、日本の組込みソフトウェア技術者は、9万人以上も不足しており、昨今の組込みソフトウェアの開発規模の巨大化・複雑化も相俟って、組込みソフトウェアに関するトラブルが急増するなど、企業経営への影響も顕在化しつつある。また、中国・インドなどアジアの国々でのオフショア開発が進んでおり、日本のソフトウェア技術力の低下、ソフトウェア産業の空洞化も懸念され始めている。

今後、日本が持続的な経済発展を遂げるためには、ソフトウェア産業の国際競争力強化が喫緊の課題であるが、幸い、関西には、優秀な大学、時代の先端をいく情報家電メーカー、情報系中小企業、専門学校が集積しており、ソフトウェア産業に対するポテンシャルが高い。また、ソフトウェア開発のグローバル化が進む中、アジアとの交流が深い関西には大きなアドバンテージがある。

これらの強みを最大限に活かし、ここ関西の地において、組込みソフト産業の振興・集積を図ることは、関西地域の経済活性化は勿論、日本の産業力強化への貢献につながるものであり、そのための推進エンジンとして、関西を組込みソフト産業の一大集積地とすることを目的とした、「組込みソフト産業推進会議」を設立するものである。

2007年8月6日

設立発起人

宮原 秀夫 (大阪大学 総長)
井上 礼之 (ダイキン工業 会長兼 CEO)
町田 勝彦 (シャープ 会長)
松下 正幸 (松下電器産業 副会長)
森下 俊三 (西日本電信電話 社長)